

授業概要

現在ほど、金融の問題がクローズアップされている時代はないかもしれません。アベノミクス、インフレ政策、バブル経済……。私たちの多くは、日々の労働によってお金を手に入れ、そのお金を商品と交換して生活しています。

しかし一方で、お金の価値は一定ではありません。私たちは同じ価値の労働を一定量おこなったからといって、同じだけの商品を手に入れられるわけではありません。それは、お金の価値が変動するからです。現在では、お金の量はコントロールされていますが、これもまだ歴史上100年も経っていない事柄です。

この授業では、歴史上「お金」がどのように発生し、進歩を遂げてきたのかを、主に江戸時代を中心にして現代まで概観します。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の案内）
第2回	鑄造貨幣の生成と流通（古代）
第3回	中世の貨幣と信用
第4回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅰ
第5回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅱ
第6回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅲ
第7回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅳ
第8回	これまでのまとめと中間試験
第9回	貨幣流通の展開と金融活動（江戸時代）Ⅴ
第10回	明治期財政と金融制度の整備Ⅰ
第11回	明治期財政と金融制度の整備Ⅱ
第12回	金融の混乱と整備の時代（大正・戦前の昭和）Ⅰ
第13回	金融の混乱と整備の時代（大正・戦前の昭和）Ⅱ
第14回	戦後日本経済の展開と銀行Ⅰ
第15回	戦後日本経済の展開と銀行Ⅱ
第16回	期末試験

到達目標

日本社会におけるお金の発生を、その進歩から現在にいたる流れを理解すること。

履修上の注意

- ・毎回出席を確認します。

予習復習

- ・前回までの内容を復習して、授業に臨むこと。

評価方法

- ・平常の受講の様子と中間試験、期末試験の合計により評価します。割合は40:20:40です。
- ・中間試験と期末試験では、授業で取りあげた史料に関する理解度を試験します。

テキスト

- ・落合功『入門 日本金融史』（日本経済評論社、2008年、2,160円）。購入する必要はありません。
- ・福澤徹三『一九世紀の豪農・名望家と地域社会』（思文閣出版、2012年）も参考図書とします。